

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(令和元年度)		事業費(円)	負担区分(円)			目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)	
			WCS用稲	WCS用稲	WCS用稲	WCS用稲								
自給飼料生産・調製再編支援	農事組合法人 鱈生ライスグループウイング	WCS用稲 24ha 飼料用トウモロコシ 0ha	WCS用稲 78ha 飼料用トウモロコシ 36ha	ラッピングマシン 1台 マニユアスプレッド 1台 稲WCS用直播機 2台 ブロードキャスター 1台 ロータリーハーロー 1台 ロータリー 1台 スタブルカルチ 1台	WCS用稲 100ha 飼料用トウモロコシ 40ha	ラッピングマシン 1台 マニユアスプレッド 1台 稲WCS用直播機 2台 ブロードキャスター 1台 ロータリーハーロー 1台 ロータリー 1台 スタブルカルチ 1台	14,403,960	6,668,000	4,334,000	0	3,401,960	81.4%	作付面積はWCS用稲が78ha、デントコーンが36haとなり目標を達成できなかった。 圃場集積の推進により当初計画時から全体の作付面積は拡大したものの、農地を保有する小規模農業者との協議が難航し、目標とする面積を確保することができなかったことが要因であり、今後は作付する圃場をより集積して、WCS用稲とデントコーンの作付面積の拡大を図り目標達成に向け取り組む。	作付面積はWCS用稲が78ha、デントコーンが36haとなり目標を達成できなかった。 圃場集積の推進により当初計画時から全体の作付面積は拡大したものの、農地を保有する小規模農業者との協議が難航し、目標とする面積を確保することができなかったことが要因と考えられる。 目標達成に向け、今後は農業委員会や村を通じ、人農地プランをはじめとする枠組みの中で引き続き農業者との協議を重ね、圃場集積への理解を得られるよう支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	佐藤牧場株式会社	WCS用稲 0ha 飼料用トウモロコシ 0ha ライ麦 0ha 牧草 5ha	WCS用稲 12ha 飼料用トウモロコシ 12ha ライ麦 3ha 牧草 0.5ha	汎用型飼料收穫機 1台 ラッピングマシン 2台 積込機 1台 飼料運搬機 1台 稲WCS用直播機 1台 プラウ 1台 とうもろこし播種機 1台	WCS用稲 11ha 飼料用トウモロコシ 7ha ライ麦 2ha 牧草 10ha	汎用型飼料收穫機 1台 ラッピングマシン 2台 積込機 1台 飼料運搬機 1台 稲WCS用直播機 1台 プラウ 1台 とうもろこし播種機 1台	36,644,400	16,965,000	11,027,000	0	8,652,400	91.7%	作付面積は27.5haとなり、目標は概ね達成された。県としても、目標達成率が100%となるよう、近隣畜産農家の需要が大きく、また省力的に大面積を担いやすい飼料用トウモロコシを中心に作付面積を拡大するため、村及び事業実施主体へ作付け方法の指導や助言を行いながら、営農活動の回復を支援する。	生産量は27.5haとなり、目標は概ね達成された。県としても、目標達成率が100%となるよう、近隣畜産農家の需要が大きく、また省力的に大面積を担いやすい飼料用トウモロコシを中心に作付面積を拡大するため、村及び事業実施主体へ作付け方法の指導や助言を行いながら、営農活動の回復を支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	西郷開拓農組合	牧草 44.9ha ソルゴー 0ha	牧草 62.6ha ソルゴー 0ha	コンバネーションベラー 1台 積込機 1台 モアコンディショナー 1台 牧草用不耕起播種機 1台	牧草 79.2ha ソルゴー 2ha	コンバネーションベラー 1台 積込機 1台 モアコンディショナー 1台 牧草用不耕起播種機 1台	24,727,680	11,448,000	7,441,000	0	5,838,680	77.1%	作付面積は牧草が62.6ha、ソルゴーが0haとなり目標を達成できなかった。 圃場集積の推進により当初計画時から全体の作付面積は拡大したものの、農地を保有する小規模農業者との協議が難航し、目標とする面積を確保することができなかったことが要因であり、今後は作付する圃場をより集積して、牧草とソルゴーの作付面積の拡大を図り目標達成に向け取り組む。	作付面積は牧草が62.6ha、ソルゴーが0haとなり目標を達成できなかった。 圃場集積の推進により当初計画時から全体の作付面積は拡大したものの、農地を保有する小規模農業者との協議が難航し、目標とする面積を確保することができなかったことが要因と考えられる。 目標達成に向け、今後は農業委員会や村を通じ、人農地プランをはじめとする枠組みの中で引き続き農業者との協議を重ね、圃場集積への理解を得られるよう支援する。
自給飼料生産・調製再編支援	山下・中島農業生産組合	WCS用稲 8ha	WCS用稲 29ha	ラッピングマシン 1台	WCS用稲 35ha	ラッピングマシン 1台	3,326,400	1,540,000	1,001,000	0	785,400	82.9%	作付面積は29haとなり、目標が達成されなかった。 昨今の米価上昇に伴い、高収益が見込まれる主食用米を中心に作付けたことが要因と考えられる。事業実施主体は作付する品目を組合員の判断に委任しており、事業としてWCS用稲の作付を担保する契約等を農業者と結んでいなかった。 現在、主食用米の在庫がだぶつき気味であり、米価の下落が懸念される。今後は、事業実施主体の経営状況も鑑みつつ、飼料用米やWCS用稲の必要性について指導を強化するとともに、村・事業実施主体と緊密に連携を図り実現していく。 さらに、畜産クラスター協議会や耕畜連携推進協議会等を通じた、WCS用稲の需要の掘り起こしを徹底することにより、作付の比率を増やし、面積を拡大するよう、村や事業実施主体へ指導・助言し、目標達成に向け支援する。	作付面積は29haとなり、目標が達成されなかった。 昨今の米価上昇に伴い、高収益が見込まれる主食用米を中心に作付けたことが要因と考えられる。事業実施主体は作付する品目を組合員の判断に委任しており、事業としてWCS用稲の作付を担保する契約等を農業者と結んでいなかった。 現在、主食用米の在庫がだぶつき気味であり、米価の下落が懸念される。今後は、事業実施主体の経営状況も鑑みつつ、飼料用米やWCS用稲の必要性について指導を強化するとともに、村・事業実施主体と緊密に連携を図り実現していく。 さらに、畜産クラスター協議会や耕畜連携推進協議会等を通じた、WCS用稲の需要の掘り起こしを徹底することにより、作付の比率を増やし、面積を拡大するよう、村や事業実施主体へ指導・助言し、目標達成に向け支援する。